



## 高知県立高知国際中学校だより

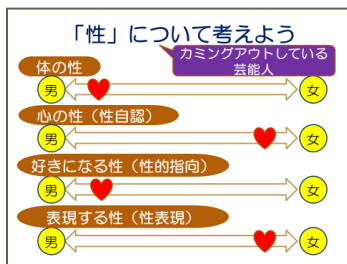
高知県立高知国際中学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

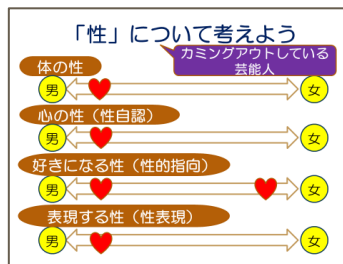
### 「性的マイノリティ」について考えました



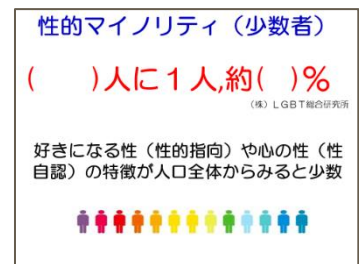
新たな年が明けた1月15日（火）。10の人権課題のひとつ「性的マイノリティ」について考える授業を行いました。目的は、大人も子ども、このことについて正しい理解をすること。そして人を傷つけないのは当たり前。傷つけられている場面で、適切な行動がとれる自分になるということでした。講師は、高知県教育委員会事務局人権教育課チーフ三木守先生です。性を考えるうえで必要な4つの視点を学びました。実際に、授業で使用したスライドの一部を、三木先生の許可を得て、掲載します。下の【図1】、【図2】をご覧ください。自分は、男性と女性の間のどのあたりに位置するかを考え♥️を置きます。例えば、【図1】や【図2】のような傾向にあるとカミングアウトしている芸能人の方には、どんな方がいるでしょうか。生徒たちは、親しみのある芸能人を思い描きながら、4つの視点を確認しました。また、こうした性的指向や心の性の特徴が、人口全体からみて少数（マイノリティの）人々は、意外に身近にいることもわかりました。【図3】の空所に入る数字を考えてみてください（正解は裏面にあります）。



【図1】

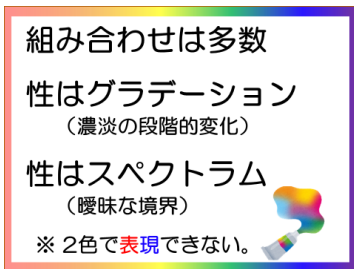


【図2】



【図3】

この日、最も重要な学びは、「性はグラデーションである」【図4】ということでした。この4つの視点で考えたとき、本来男性か女性か、赤か青かと明確に区別する類のものではなく、100人いたら100通りの性があるということです。また、特に中学生の今の時期は、自分がどの位置にあるのか、その♥️は揺れて当然のものというも抑えておくべきポイントでした。NHKのある番組で、カールセル麻紀さんら性的マイノリティの芸能人の方々が、自らの人生の中で、多々苦しい経験をしながらも、「生まれ変わったら、もう一度自分自身になりたい」とお答えになったことも紹介されました。大事にしたいのは、自分自身の性、自分らしさということなのです。さて、私たちは、「自分らしさ、その人らしさ」をお互いに尊重した居心地の良い社会をつくらせているでしょうか。



【図4】



【図5】



【聞き入る生徒たち】

講演の中では、いじめにあたり、自分の親にさえ打ち明けても理解してもらえなかったりして苦しんでいる人、自殺をした人の話がありました。これまでの自分自身の言動を振り返る貴重な機会となりました。心ないことばの使用だけでなく、自分自身の思い込みはないかをみんなで見直してみました。「男の子なのに髪が長い」「女性らしい服装」などということば、意外に無意識につかわれています。【図5】は、新しくできた本校の西校舎のトイレ入口です。実際使っている人を見たことはほぼありませんでした。「特別な事情の人しか使えないトイレ」という思い込みはないでしょうか。そのトイレから出てくると、「特別な事情がある人だ」と社会にさらすことになる状況を、「無意識に私たちがつづけている」ことに気づかされました。この6色の虹は「Ally」といって性的マイノリティについて正しい理解をし、受け入れる意識をもって示すため使用されています。日本でも携帯会社を始め多くの大手企業が ALLY の表明をしており、街の中で6色の虹を見かけるようにもなりました。スマートフォンでは絵文字もできています。最後に、アメリカのドッキリ番組『What Would You Do?』を視聴しました。人の心を傷つける場面に遭遇した時に、自分はどうか行動するのか考えさせられました。「感動して泣いてしまった」、「あとでもう一回自分で観た」という生徒もいました。Youtube(テキサス・同性愛)で観ることができますので、是非ご家庭でもご覧ください。人に対する感性、心のアンテナを磨く。まずは毎日の自分の言動を意識することから始めようと誓って、この日の授業を終わりました。（主幹教諭 井上祐子）

# 生徒の皆さんの振り返りシートより ほんの一部ですがご紹介いたします

授業後、講師の先生に質問に行く人、「だれでもトイレ」を自分たちが使おう！と友達と使い始める人。さっそく行動を起こす素晴らしい生徒たちです。

## ハツとしたこと

「学校にあるトイレのマークは何かなと思っていた」「そういうトイレがあることに気づいてなかった」「学校の“だれでもトイレ”が使いづらいことから、人の気持ちを考えて物を作るのは難しいということに気づいた」「孤独の怖さ」「どっきり番組の中の“人は人を裁けず、不当に扱う権利なんてない”ということば」

## 人を傷つけていないか気になったこと

「彼、彼女という言葉を意識せずに使っていること」「自分の常識は他の人と一致していないんじゃないかと不安になった」

「女っぽい、男っぽいと言って、相手を傷つけていたかもしれない」「“だれでもトイレ”の例のように、良いと思ってしたこと、傷つけてこなかったか不安」

「ゲイやレズということばを簡単に使ってしまった」「他者の考えを否定せずに受け取っているか」

## へ～と思ったこと

「6色の虹を身にまとうことで、誰かの助けになっている可能性があること」「身近に性的マイノリティの人はいるかもしれないこと」

## ホツとしたこと

「この授業を受けて、自分が少し認められた気がした」「色はたくさんあっていいんだということ」「生まれ変わっても自分になりたいという自信をもつ」

「絶対に理解してくれる人はいるということ」「誰かに相談される前にこの勉強ができたこと」「うちの家族が人を傷つけるような人たちでなかったこと」

## 今日から〇〇なことができる人になります！

「性別で物事を考えない人」「人の心理的な問題に真剣に向き合える人」「すぐ人を否定せず肯定できる人」「一回考えてから発言する人」「正義感を貫ける人」「不適切なことを言っている人がいたら注意できる人」「自分の言葉で人を守れる、救える人」

## 三木先生からのお返事 ～授業後、講師の先生に手紙を書いていた～

高知国際中学校のみなさんへ

感想など、皆様からお手紙をいただき、心より感謝いたします。講話では、60分のなかに、皆さんからの意見などを聞ける時間を想定していませんでしたが、頷いてくれたり真剣な表情を返してくれたり、貴重な時間を共に過ごす充実感と喜びを感じることができました。お手紙でも、多くの思いを感じました。自分の生活や日常に重ねて考えたり、自分自身の言動を振り返ったり、紹介した事例を身近なものとして考えてくれていました。また、世の中や社会の変化を求めて、より良い社会づくりに貢献したい思いもありました。まず、自分自身が相手の想いをしっかり受け止められるようになりたい。困っているひとの支えになりたい。ALLYの考えに共感し、自分から行動できるようになりたい。そんな、頼もしい内容もたくさんありました。名称で分けることに抵抗感を感じている意見もありましたが、それは高い人権意識があって感じるものだと思います。残念ながら、性的マイノリティの人々に対する偏見や差別の現実があります。今は、この課題を解決するための過程で、名称の必要性が感じられます。これらの名称が適切に使用される社会になるように、毎日の私たち自身のことばや行動を磨いていきましょう。なぜ6色の虹なのか？という質問もありましたが、長い歴史の中で、紆余曲折があったようです。是非皆さんで確認してみてください。

皆さんからの感想に、講話の意味を再確認し多くの勇気をいただきました。このような機会をいただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。

高知県教育委員会事務局 人権教育課 三木 守

## 他の教科でも性について考えています

### 理科と保健の学際的単元

1月は、理科と保健は共通して「システム」という概念を扱い「システムは均衡を保つ」という探究テーマで学習しています。体の仕組みとしてなぜ男女があるのか、十代前半は、どのような時期なのかを探究しています。

### 家庭科

家庭科では、住空間の勉強をしました。「誰にとっても快適な空間はあり得るか」を考える中で「(単純に)男女では分けられない」という発言がありました。

表面【図3】の正解：13人に1人、約8%

高知県立高知国際中学校

〒780-0852 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

TEL:088-844-1221 FAX:088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kokusai-jh/>

Email: [kokusai-jh@kochinet.ed.jp](mailto:kokusai-jh@kochinet.ed.jp)